



# かえるの声

平成26年 7月11日(金)発行

No. 7

途別小学校の教育目標  
あかるい子(徳)  
かしこい子(知)  
たくましい子(体)  
知・徳・体をバランスよく育てよう

## 学力を高める教育活動



4年生の算数で、平行四辺形のかき方を学習しているところです。自分で問題を解こうとする子ども、先生に個別に教えてもらう子ども、完全に理解し友達に説明をする子ども、説明を聞きながら理解を深めている子ども等、習熟度に合わせて自力解決の時間が進められています。交流の場面では、児童が実際にノートに平行四辺形をかきながらかき方を説明し、教師がその様子をタブレットPCの動画で撮り、モニターに転送します。説明だけではなく、視覚に訴えることでとてもよくわかるようです。

低学年の授業の様子です。みんなでしっかりと学習した後、ペアで説明したり、黒板に書いて説明したりする活動を、全学年で大切にしています。「説明できたらわかったということ」「大事なものは書いて説明すること」等の意識の醸成を目指しています。授業の中で「先生にここ説明して」と言葉掛けしたり、「隣の人に説明してみよう」と指示したりし、積極的な言語化による言語能力の育成に努めています。



本校の子どもたちは係や当番の仕事をしっかりと行います。その取組の中で、興味をもったり、自分に合うと思ったりする仕事に出会い、繰り返しやることで自己のポテンシャルに気付くきっかけが生まれます。そこで必要なのは、子どもたちの学びの様子を見取る教師の目です。つぶさに言語化を促し、一生懸命頑張っている自分の可視化につなげます。

教務部で体育館前の廊下に「ことばの広場」を設置しました。全職員で子どもたちを見取る体制や掲示を大切にしています。



## 畑の先生、ありがとうございます

6月27日(金)、本校のPTA副会長角田成幸さんが「畑の先生」として、中学年の子どもたちに「かぼちゃの摘芯」の仕方を教えてくださいました。

まず教室で、黒板に図解しながら、摘芯についてわかりやすく説明していただきました。次に農園に出て、実際に摘芯に挑戦。何とか子づるを3本見付け、3方向に伸ばすことができました。

「たくさんできてよかったとか、おいしかっただけではなく、たくさん作るためにどんな工夫があるのか等、作物ができるまでの過程を学習してほしい。」と願う角田先生。まさに本校の食農教育の目的と一致します。「専門的な知識や技能を学び、体験し、言語化して自分の内面の成長に生かす」そんな学習を実現するために、畑の先生の存在は欠かせません。角田先生ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

次回は、高学年が「稲の先生」から、水田の雑草の見分け方や取り方を学ぶ予定です。



角田先生から図でつるののばし方や、親づるをどのあたりで切ればいいのか教わってよくわかりました。外でかぼちゃのつるをどこで切ればいいのか、やってみるとむずかしかったです。のうかの人はかぼちゃのつるを切るのとかをできているので、すごいと思います。

3年生

かぼちゃのてきしんでは、子づるが3本になったら親づるを切るということだそうです。葉っぱのわきから子づると花が出るそうです。かぼちゃがそんなにむずかしかったとは思わなかったです。

4年生



## 親子ガラス拭き・給食会

7月8日(火)にPTA母の部のお母さん方にご協力いただき、「親子ガラス拭き」を行いました。お母さん方と教職員で、まず廊下や特別教室のガラス拭きを行い、その後子どもと一緒に各教室のガラスを拭くという流れでした。蒸し暑い日となりましたが、お母さん方のテキパキとした動きが素晴らしく、作業はどんどん進みました。ガラス拭きの後は、何人かのお父さん方も加わって、親子給食会を実施。皆さん和やかな雰囲気の中で、塩ラーメンをおいしそうに食べていました。5時間目の授業参観、そして全体・学級懇談を経て、全てのスケジュールが終了しました。たくさん交流ができてありがたい1日となりました。